



asahi スーパーママチャリGP

第11回ママチャリ日本グランプリ チーム対抗7時間耐久ママチャリ世界選手権 開催結果

富士スピードウェイでは、1月7日(日)に、「あさひスーパーママチャリグランプリ 第11回 ママチャリ日本グランプリ チーム対抗7時間耐久ママチャリ世界選手権」を開催。晴天の中、霊峰富士をバックに1,151チーム、24,300人が参加しました。

ママチャリグランプリは、FIA 世界耐久選手権や SUPER GT など自動車レースの舞台となる国際格式のレーシングコースを使用し、1台のママチャリを最大10名のチーム内で交代しながら7時間を走りぬく、正月恒例の自転車イベントです。

本年度は、「ゼッケン No.229 キクミモーターズモキュ」が49周(約223.5km)を走破し優勝しました。

大会前夜には、「エレクトリカル・ナイトウォーク」を実施し、参加者は、電飾やライト、光るおもちゃなどを身につけてチームの仲間とともに夜のレーシングコースを散策しました。

また、パドックエリアでは、チームでテントを張りBBQを行うなど、競技以外でも冬のイベントを楽しんでいただきました。

競技中は、速い選手を揃え上位進出を目指すチーム、会社のノボリ等を自転車に装着してPRに余念がないチーム、自転車に装飾し走者が着ぐるみなどでコスプレを楽しみながら走行するチームなど、各チームが7時間先のゴールを、それぞれのスタイルで目指し、楽しんでいました。

ピットガレージには、サイクルベースあさひによる自転車の修理、点検、整備用の「ママチャリGP PIT」が開設され、セーフティカーとして88CYCLE(ハチハチサイクル)が導入されたほか、パドックエリアの「サイクルベースあさひブース」では、「フォトブース」、「サイクリングウェアの即売会」、2017年グッドデザイン賞を受賞した折りたたみ自転車「OUTRUNK(アウトランク)」の展示が行われました。また、ピットビル屋上では「スポーツサイクル試乗会」が開かれ、多くの方にご利用いただきました。

大会終了後には、スーパーフォーミュラとインタープロトのデモランが行われ、スーパーフォーミュラ「SF14」を石浦宏明選手と国本雄資選手が、インタープロトシリーズ専用車両「kuruma」を山下健太選手、坪井翔選手が、迫力のレーシングスピードによるドライビングを披露しました。



スタート前の記念撮影



スタート直後の様子



コース内を走る参加者の方々

以上

【インフォメーションに関するお問い合わせ】営業部 広報・マーケティング課

TEL: 0550-78-1235(本社)/03-3556-8511(東京営業所) E-mail: press@fujispeedway.co.jp